

「自律」に向けて話し合える学級をつくる

これからの予測困難な時代を生き抜き、新たな社会を形成する子どもたちには、生涯に渡って学び続ける意欲や態度を養うことが必要です。

支持的風土では、「支援」と「自律」の関係を育み、学校や学級において、自治的に生活できる集団をつくりまします。そのなかで、子どもがこれからの社会を仲間と共に切り拓くために必要な人間関係を形成する力、未知の事態に対して正しく状況を判断して社会参画できる力を培います。

自律

事実を基に的確に状況を捉え、自分の目標、集団に共有されている価値に照らして適切に判断し、行動できること。

自分の行動に責任をもつこと。 **子どもの姿**

自分の行為を振り返り、今後どうすべきかを考える。

自治的な集団をつくる

集団に必要な規律やルールを自分たちで決め、それを進んで守り、自分たちの問題や課題は、自分たちの力で知恵を出し合いながら仲間とともに解決しようとする集団をつくる。

PDCAサイクルを学級として機能させる

他律的な罰則を伴うものではない



学習指導要領【小学校】第6章 【中学校】第5章 第3の2の(1)より抜粋

教師の適切な指導の下に、児童生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにすること。その際、よりよい生活を築くために自分たちできまりを作って守る活動などを充実するよう工夫すること。

学級で生活問題を話し合うことは、子どもの問題解決力を向上させ、自律につながります。さらに自分が心配していることやみんなが困っていることなどを、友達と一緒に悩み、考え、協力し、解決することを通して、友達との信頼関係や学級への愛着が高まり、支援の関係が育まれ、支持的風土の醸成が図られます。

このような話し合いでは、単に「みんなと話し合うと楽しい」「友達と一緒にだと楽しい」などで終わるのではなく、話し合いを通して自分たちの課題に対する新たな解決方法を発見したり、互いの考えを分かり合い、認め合いながら折り合いを付けて実践したりする『真の楽しみ』を味わわせることが重要です。

様々な活動や授業で話し合いを進めるときには、次のステップを参考にしてください。

話し合いのステップ

①知る	友達の考えや気持ちをよく聞いて知る。	傾聴
②分かる	友達の考えや気持ちが相手の立場になって分かる。	解釈
③比べる	友達の考えや気持ちを自分と比べながら考える。	検討
④折り合う	友達の考えや気持ちも大切にしていよりよい内容や方法を選ぶ。	選定